



**人口減少に対応する
施策の構築はいかに**
丸山 章（市民クラブ）



問／計画における将来人口（10年後、20年後、30年後）の目標値があまりに低い、新しい政策・施策を盛り込んだ数値にする考えはないか。

答／当市は、合計特殊出生率1・68を目標に掲げている。その一方、転出超過が拡大傾向であり、定めた将来人口は決して低いものでない。

問／人口減少を鈍化させる施策を推進することは極めて大切である。市長がトップダウン形式で職員に指示し、取り組んだ施策はあるのか。

答／市長就任以来、子育て支援に係る取組を着実に進めてきた結果、高い評価をいただいた。今後も人口減少緩和に向け、取り組んでいく。

問／人口減少に対応するため、20年後、30年後の上越像を設定しつつ、企業誘致などの大枠での目標や姿を示すことが大切ではないか。

答／当市の人口動態を直視した際、不確実性の高い目標設定より、目の前の課題解決のための多面的な課題分析や政策等の検討に注力する。

国民健康保険税の負担軽減策の考えは

問／当市の保険税額は、県内20市中8番目に高く、近隣の妙高市、柏崎市とは大きな差がある。今後の保険税軽減策の考え方を聞きたい。

答／保険給付費多寡や法定外繰入金の有無等が他市との差の要因である。生活習慣病改善や疾病の早期発見による医療費縮減を図っている。



金谷山公園を将来に引き継いでいくために
田中 聡（輝）



問／金谷山公園は、豊かな自然や歴史、文化にふれることができ、市民から長く愛されてきた。この公園をしっかりと将来に引き継ぐため、時代の要望に沿った整備が必要と考える。今後の整備計画に関する市の考えを聞きたい。

答／金谷山公園が、これまでも時代の流れとともに少しずつ姿を変えてきたように、市民の価値観やライフスタイルの多様化など昨今の変化を踏まえ、「変えるもの」と「変えないもの」を選択し、未来の公園の姿を描いていく意義はあると考える。関係団体の意見や、新年度開催予定の「観光地域づくり実践未来塾」で生まれるアイデアを取り入れ、整備、活用していく。

問／公園内の景観とトイレなどの衛生面の整備の考えはどうか。また、地域の子どもたちの夢や希望を今後の計画に反映させる考えはないか。

答／観光交流施設のトイレ整備には、これまでも気を使ってきた。スキー発祥記念館はまだ和式だけであり、改善することとした。また、金谷山公園のトイレは、関係部署にて確認、計画していく。市民の心に

残る公園であるように、今後の整備については子どもたちや関係者の意見をしっかりと聞いて

いきたい。




**農業労働災害の実態と
事故防止への対策は**
橋本 正幸（日本共産党議員団）



問／農業労働災害及び農業労働災害補償の実態と事故防止に向けての取組について聞きたい。

答／令和元年4月～10月の発生件数は、265件で前年同期に比べ39件減少している。うち人身事故発生件数は14件で、前年同期比で2件減少している。その人身事故の発生原因別で見ると、農作業中の転倒・熱中症9件、作業機械の操作誤りが5件である。また、年代別では60代までが10件、70代以上が4件である。令和2年2月末現在、JAえちご上越管内における農業労働災害補償の加入総数は839件、補償対象者は2873人である。また、農作業事故防止の取組として、農作業機械を頻繁に使う春・秋作業の時期に、防災行政無線や有線放送、広報上越の活用等により注意を呼び掛けている。

障害者雇用の創出や就労意欲向上のために

問／障害者雇用の創出や就労意欲向上の取組は。

答／障害者就業・生活支援センターに「ジョブサポート」を1名配置し、障害特性に応じた指導や就労先との調整等を行っている。福祉的就労では、障害福祉事業所で組織する「上越ワーキングネット」に補助金を交付し作業機会や作業工賃の向上に向け支援してきた。また、農福連携障害者就労コーディネート事業では、18の農業者から依頼があり123人が従事した。